

## 参考資料2 米国の競争的研究資金の状況

米国の基礎研究助成の御三家は、全米科学財団（NSF。約 60 億ドル）、米国国立衛生研究所（NIH。約 250 億ドル）、国防高等研究計画局（DARPA。約 30 億ドル）である。これにエネルギー省（DOE）、航空宇宙局（NASA）、農務省（USDA）、国防総省（DOD）を加えると、連邦政府の基礎研究支出の 97%を占めている（2009 年）。

応用研究になると、米国環境保護庁（USEPA）をはじめ多くの省が独自の競争的研究資金を有しており、それぞれの分野の研究の助成を行っている。

NIH は、保健衛生分野において巨額の研究助成を行っている研究所であるが、名称の National Institutes of Health が示すとおり、異なる分野の 27 の研究所やセンターの集合体である。これらの研究所やセンターは、議会に対して独自に予算要求を行っており、議会での審議にもそれぞれの研究所長が対応している。各研究所及びセンターは、自らの研究所の研究予算と自らの分野の funding 資金を要求しており（NIH 本部は管理費用のみを要求）、それらが認められると、まとめて NIH を所管する米国保健福祉省（HHS）に予算計上される。計上された予算は、そのまま各研究所及びセンターに渡される。その総額が約 300 億ドルであり、その約 10%が各研究所及びセンターの研究予算で、約 10%が管理費用であり、残りの 80%以上が funding により外部に助成される。研究内容や funding の内容を決定する権限は、各研究所及びセンターが有しているようである。NIH の funding は一つのものではなく、分野毎のいくつもの funding に分かれている。NIH の所長の権限を強化しようという動きもあるようであるが、約 6000 人の研究者相手ではなかなか実現しないようである。